

エコアクション21 環境経営レポート

第11期（2022年10月～2023年9月）

2022年度



発行日： 2024年 2月 16日

株式会社 ヒューマンハーバー

目 次

1. 組織の概要	・・・・・・・・ P1～P5
2. 認証・登録の対象範囲	・・・・・・・・ P6
3. 環境経営方針	・・・・・・・・ P7
4. 環境経営目標	・・・・・・・・ P8
5. 環境経営目標の実績	・・・・・・・・ P9
6. 環境経営計画及びその取組結果とその評価、 今後の取組内容	・・・・・・・・ P14
7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、 並びに違反、訴訟等の有無	・・・・・・・・ P15
8. 代表者による全体評価と見直し・指示の結果 及び次年度の環境経営目標	・・・・・・・・ P15

1. 組織の概要

1) 事業所名 株式会社 ヒューマンハーバー
代表者氏名 代表取締役 副島 勲

2) 所在地 本社 : 〒810-0004 福岡市中央区渡辺通1丁目9-3
若草工場 : 〒811-2124 福岡県糟屋郡宇美町若草2丁目17-1

3) 環境管理責任者 取締役/統括部長 津田 正二
担当者連絡先 総務部 田中 愛里
TEL : 092-934-3088 FAX : 092-934-3089
E-mail : a-tanaka@humanharbor.org
HP : <http://www.humanharbor.org>

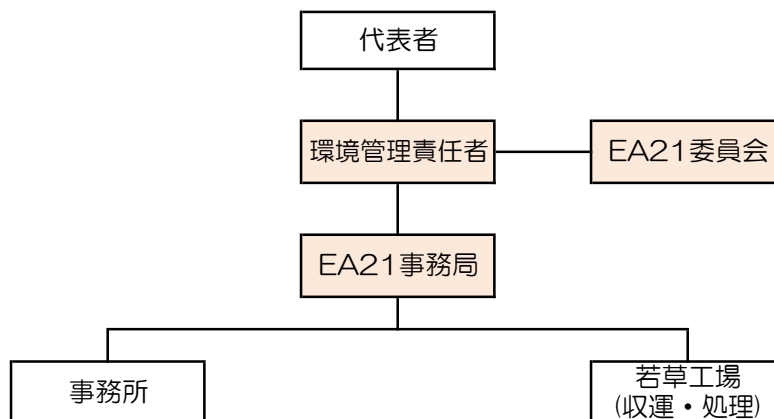
4) 事業の内容 スクラップ回収・再資源化、産業廃棄物の収集運搬及び中間処理

5) 事業の規模 法人設立年月日：2012年12月3日
資本金：5,950万円
売上高：169百万円（第11期：2022年度）

	単位	本社	若草工場	合計
従業員数	人	1	14	15
床面積	m ²	59	510	569

6) 事業年度 10月 ～ 翌年9月

7) EA21実施体制



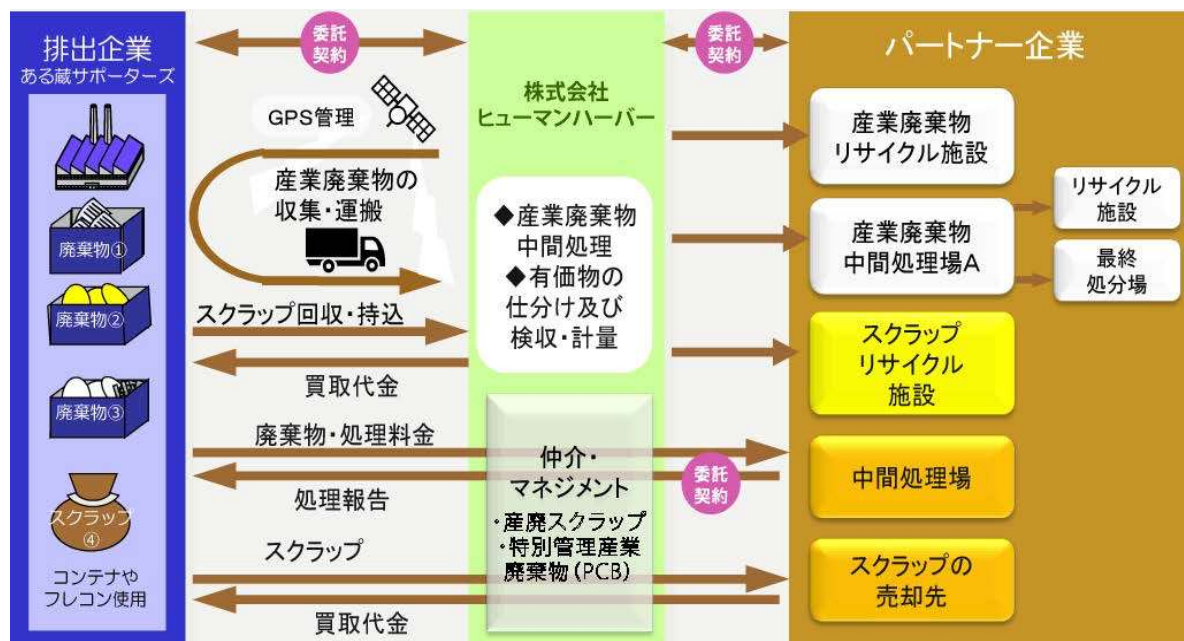
8) 許可の内容（若草工場）

産業廃棄物収集運搬業				許可項目																			
都道府県 及び 政令都市	積替 保管		許可の年月日 及び 有効年月日	許可番号	燃 え 殻	汚 泥	廃 油	廃 酸	廃 アルカリ	廃 プラスチック類	紙 く ず	木 く ず	織 維 く ず	動 植 物 性 残 さ	ゴ ム く ず	金 属 く ず	ガラスくず等	が れ き 類	ば い じ ん	鉋 さい	動物のふん尿	動物系固形不要物	動物の死体
	有	無																					
福岡県		●	令和5年6月11日 令和10年6月10日	第04000172001号	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
佐賀県		●	令和5年5月20日 令和10年5月19日	第04101172001号	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
大分県		●	平成31年1月17日 令和6年1月16日	第04407172001号	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
長崎県		●	平成31年1月29日 令和6年3月28日	第04200172001号	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
熊本県		●	平成31年3月26日 令和6年3月25日	第04305172001号	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
山口県		●	令和3年9月13日 令和8年9月1日	第03500172001号	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
宮崎県		●	令和3年12月9日 令和8年12月8日	第04500172001号	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
鹿児島県		●	令和3年10月20日 令和8年10月19日	第04608172001号	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
産業廃棄物処分業 処理方法：中間処理（選別）																							
福岡県			令和5年6月17日 令和10年6月16日	第04020172001号						●	●	●	●		●	●	●	●					

■その他：古物商（許可No.901151310003）

<事業計画の概要>

- ・収集運搬許可を受けた産業廃棄物（上記品目）については、事業者から運搬の委託を受けた場合、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づく契約を締結し、排出業者からマニフェストの交付を受け、指定された許可処分業者の事業場に運搬する。
- ・また、処分許可を受けた産業廃棄物（上記品目）は選別作業を行い、再生処理・最終処理業者へ搬出する。



9) 施設等の状況（若草工場）

●収集運搬業（運搬車両種類と台数）

車両	最大積載量(kg)	台数
4tダンプ車	3,850	1台
4tクラム車	1,250	1台
4tユニック車	2,250	1台
4tアームロール車	3,600	1台
4tアームロール車	3,900	1台

車両	最大積載量(kg)	台数
8tクラム車	5,000	1台
3tトラック車	3,000	1台
2t車	2,000	1台
プロボックス	350	2台
軽トラック	770	1台

●中間処理業（処理方法と処理能力）

処理方法 : 選別

中間処理施設 : ふるい・コンベア・磁力選別機

処理能力 : 9.9t/日（8時間）

処理可能品目 : 廃プラスチック類、金属くず、
ガラスくず等（以上3品目については、自動車等破砕物を除く。）、
紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、がれき類 以上8品目

●その他施設

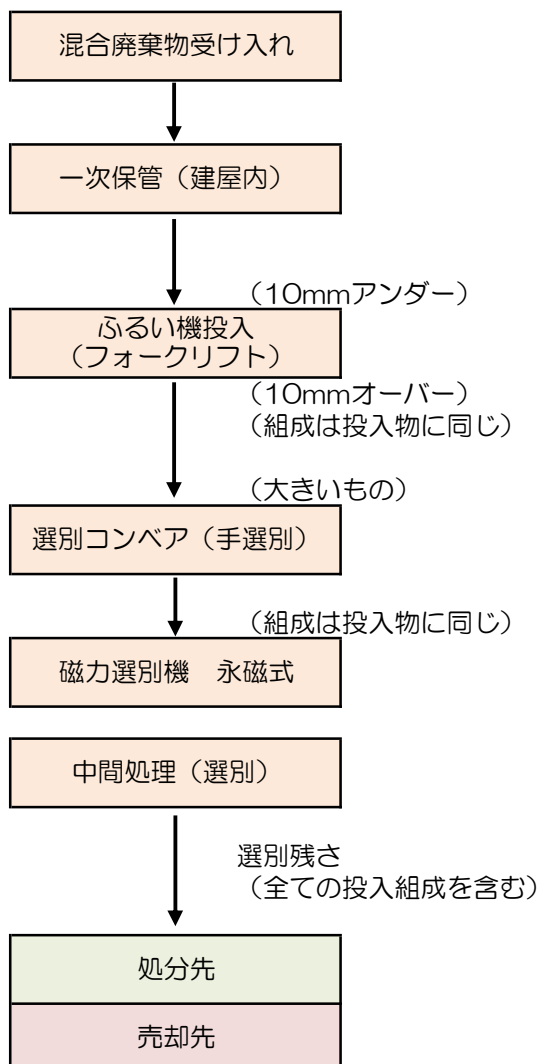
・フォークリフト（2台）

・コンボ（1台）

・3m³コンテナ（50台）

・1.5m³コンテナ（30台）

10) 処理工程図（若草工場）



（↑選別作業）



（↑金属くず集積）

1 1) 処理実績（若草工場）第11期 2022年度（2022.10～2023.9）

【産業廃棄物取扱量】

処理方法		廃棄物等種類	処理量(kg)
(i) 収集運搬		廃油	5,924
		汚泥	1,240
		金属	877,928
		廃プラスチック	32,421
		紙くず	33,122
		木くず	65,241
		ガラス類	18,630
		がれき類	98,485
		混合廃棄物	137,662
収集運搬量 合計			1,270,653
処理方法		廃棄物等種類	処理量(kg)
(iv) 中間処理後の状況	最終処分	ガラス（安定型最終処分）	35,873
		選別残渣物（焼却後安定型最終処分）	1,076
	再資源化物	金属スクラップ(銅材等原料：売却)	1,044,832
		廃プラスチック（セメント原料：委託）	43,185
		廃プラスチック（ペレット等原料化：売却）	7,621
		紙くず（再生利用）	51,772
		木くず（燃料化：委託）	87,656
		がれき類（路盤材：委託）	123,929
		うち、再資源化された物（A）	1,358,994
中間処理 合計（B）			1,395,944
産業廃棄物リサイクル率 =（A）÷（B）			97%

工場からの産廃処理

廃棄物を排出されている企業様「廃棄物処理をより安全に行いたい」このようなお悩みを抱えてはいませんか？



電線・銅管の買取

ある蔵は相場に合わせて電線や銅管などを買取！相場にあわせて適正な買取と、お客様のご事情に合わせた回収方法（引取・持込）で、スムーズな電線や銅線などの金属回収・買取を実現します。



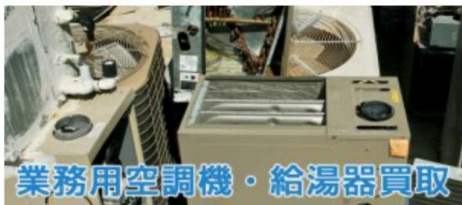
工事現場での廃棄物処理

ある蔵は工事現場での日程の調整を行い、お客様の現場スケジュールに併せて、積み込み・回収します。そして速やかにお支払い致します。



業務用空調機・給湯器買取

大手ゼネコンや行政が元請の空調設備工事業者様へ。業務用空調機の処理の際、「とにかく面倒くさい！」と思われたことはありませんか？そんな時の「ある蔵」です！



1 2) 刑余者（出所者）の就労支援

- 約17年間保護司として活動してきた代表の副島勲が、
「宿泊の場」「就労の場」「教育の場」の三位一体の取り組みこそがカギと考え、
再犯を起こさせない社会づくりを目指して、株式会社ヒューマンハーバーを設立した。
この収益をもとに、自立更生のためのリハビリテーション施設（中間支援施設）を提供し、
出所者の就労支援を行っている。

《設立当初》 平成24(2012)年12月3日



《分社後》 令和2(2021)年4月1日～



分社に伴い、産廃業は管理業務を含めて株式会社ヒューマンハーバー（若草工場）が、
教育支援や相談事業は、分社した一般社団法人ヒューマンハーバーそんとく塾が担うことになった。
なお分社後も、対象者はそんとく塾の教育支援（心のスポンジプログラム）を受講している。

2. 認証・登録の対象範囲

- 1) 対象組織 本社
 若草工場
- 2) 対象活動 スクラップ回収・再資源化、産業廃棄物の収集運搬及び中間処理
- 3) 対象外事業所 無（全組織・全活動を対象とする）

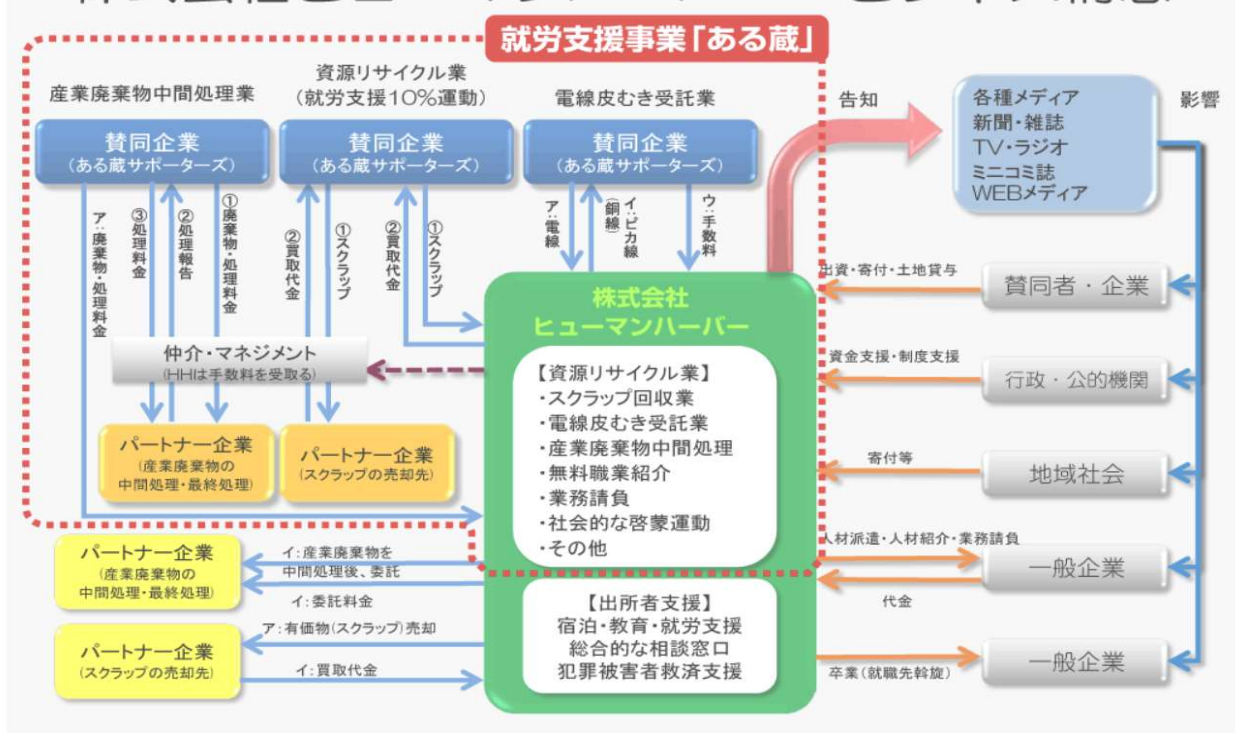


再犯率を下げるための「ある蔵」事業

ある蔵

産業廃棄物処理を行う『ある蔵』は支援対象者が就労経験を積む就労支援部門であると同時に、収益を中心的に生み出すHHの中核となる事業です。各企業が事業活動をする限り、排出されるスクラップや廃棄物は、量の増減はあっても無くなることはありません。再犯問題の解決に関心を寄せる企業様にとって『ある蔵』の掲げる就労支援10%運動への協力は、従来の再犯防止の取組みへの資金提供や、出所者の直接雇用に次ぐ新たな支援方法となっています。

株式会社ヒューマンハーバー ビジネス構想



3. 環境経営方針

当社は、ユヌス・ソーシャルビジネスの日本第一号認定会社として「再犯のない社会」を目指し、出所者の更生と自立を推進すると共に、『ユヌス7原則』の1つである「環境への配慮」の実現に向けて、有用資源の回収及び産業廃棄物収集運搬・中間処理業務を通じ限りある資源の活用に努めます。また、経営の重点課題であるすべての人の幸せと生活文化の向上の為、全社員一丸となって人と地球環境にやさしい事業活動を行います。

1. 次の事項に重点的に取り組みます。

- (1) 二酸化炭素の排出量を削減します。
- (2) 廃棄物の排出量を削減します。
- (3) 水の使用量を削減します。
- (4) グリーン購入を推進します。
- (5) スクラップの徹底選別を行い有価物の回収に努めます。

2. 関係する環境関連法規等を遵守します。

3. 環境の課題に対し、経営の視点を持ち、現状の課題に対して取り組みを継続するとともに、環境経営の継続的改善を推進していきます。

【ユヌス・ソーシャルビジネス7原則】

- 1.ユヌス・ソーシャルビジネスの目的は、利益の最大化ではなく、人々や社会や脅かす貧困、教育、環境といった問題を解決することです。
- 2.財務的、経済的な持続可能性を実現します。
- 3.投資家は、投資額を回収します。しかしそれを上回る配当は還元されません。
- 4.投資の元本の回収以降に生じた利益はユヌス・ソーシャルビジネスの普及とよりよい実施のために使われます。
- 5.環境へ配慮します。
- 6.雇用者は良い労働条件で給料を得ることができます。
- 7.....楽しみながら。

制定日 2013年 9月 27日

改定日 2023年 6月 9日

株式会社 ヒューマンハーバー

代表取締役 副島 勲

4. 環境経営目標

● 当社の事業活動を行うにあたっては、環境方針を踏まえて、次の5項目10目標で構成する環境目標を設定しました。

環境目標項目	単位	基準年実績	単年度目標	中長期目標		
		第9期 (2020.10～ 2021.9)	第10期 (2021.10～ 2022.9)	第11期 (2022.10～ 2023.9)	第12期 (2023.10～ 2024.9)	第13期 (2024.10～ 2025.9)
1. 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO2	95,547	93,126	90,773	88,486	86,263
① 電気使用量の削減	kWh	17,659	17,482	17,308	17,135	16,963
② ガソリン(車) 使用量の削減	L	5,787	5,729	5,672	5,615	5,559
③ 軽油(トラック・リフト) 使用量の削減	L	28,408	27,555	26,729	25,927	25,149
④ 液化石油ガス(LPG) 使用量の削減	m3	124	123	121	120	119
2. 廃棄物排出量の削減						
① 一般廃棄物排出量の削減	kg	387	383	379	375	371
② 産業廃棄物のリサイクル率の維持向上	%	97	97	97	97	97
3. 水使用量の削減	m ³	120	119	117	116	115
4. グリーン購入の推進	品目数	28	31	34	37	41
5. スクラップ(有価物)のリサイクル率の向上	個数 (回収リテラ)	115	115	115	115	115

【備考】

- 1) 二酸化炭素排出量の目標は、当社の事業計画に基づく今後の規模拡大を踏まえて設定した各種エネルギー使用量の目標値から算定した。
- 2) 二酸化炭素排出量の計算で使用した購入電力の排出係数は、九州電力(株)の2020年度調整後排出係数(0.479kg-CO₂/kWh)を使用した。
- 3) 電力使用量とガソリン(車)使用量の第11期目標は、基準年(第9期)実績値に対して1%削減率を乗じて設定した。また第12期以降の中長期目標も、毎年前年度目標の1%削減で設定した。
- 4) 軽油使用量の第11期目標は、基準年(第9期)実績値に対して3%削減率を乗じて設定した。また第12期以降の中長期目標も、毎年前年度目標の3%削減で設定した。
- 5) 液化石油ガス(LPG)使用量の第11期目標は、基準年(第9期)実績値に対して1%削減率を乗じて目標を設定した。また12期以降の中長期目標も、毎年前年度目標の1%削減で設定した。
- 6) 化学物質については、本事業では使用していない為、環境目標から削除した。
- 7) 一般廃棄物排出量と水使用量の第11期目標は、基準年(第9期)実績値に対して1%削減率を乗じて設定した。また第11期以降の中長期目標も、毎年前年度目標の1%削減で設定した。
- 8) 産業廃棄物の目標は、中間処理量の内、再資源化量の比率をリサイクル率として設定し、基準年(第9期)の水準を維持することを目標とした。
- 9) グリーン購入の推進目標は、基準年(第9期)購入品目数実績値に対して、毎年10%推進率を乗じて設定した。
- 10) スクラップのリサイクル率向上は資源回収率の向上を目指すため、取引先にスクラップ分別コンテナの設置個数を目標とした。なお、コンテナ在庫に関してはフレコンへの移行を進めているため、設置個数は据え置くこととした。

5. 環境経営目標の実績

- エコアクション21、第11期2022年度の運用における環境目標の達成状況は次のとおりである。
- 設定した目標の内、二酸化炭素排出量の削減・廃棄物処理量の削減の2項目を達成できた。
- 当社の最大の環境負荷である二酸化炭素排出量は、
前期に引き続き、上期は年末や年度末の回収依頼の減少によりトラックの稼働が少なかったが、
下期は世間が通常に戻ってきた影響か、後ろ倒しになっていた工事が開始したことで依頼も増加し、
前期より軽油の使用量が増えている月が多々あった。
- 産業廃棄物のリサイクル率は、分別を徹底したことで目標を維持出来た。
- 水使用量は、冬場に水道管・メーターが破損し、検針ができなくなった。
- グリーン購入は、購入数は減っているものの、同商品購入をカウントしないことを考えると、
新たに20品目のグリーン商品を購入したことになるため悪くない実績だと思う。
- スクラップ（有価物）リサイクル率の向上は、僅かに目標に届かなかった。
会社設立当初は、有価物をコンテナで回収していたためこの目標設定になったが、
産廃の許可が取れた現在はそのコンテナにゴミが混在しており、本来の意味をなしていない。
現在は分別後の品目で判断しているため、折を見て目標内容の修正が必要だと考える。

項 目	単位	第11期 2022年度 (2022.10~2023.9)		目標 達成率	目標達成 の判定
		目標	実績		
1. 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO2	90,773	75,604	120%	◎
①電気使用量の削減	kWh	17,308	15,263	113%	○
②ガソリン(車) 使用量の削減	L	5,672	3,830	148%	◎
③軽油(トラック・リフト) 使用量の削減	L	26,729	22,647	118%	○
④液化石油ガス(LPG) 使用量の削減	m ³	121	110	110%	○
2. 廃棄物排出量の削減					
①一般廃棄物排出量の削減	kg	379	238	159%	◎
②産業廃棄物のリサイクル率の維持向上	%	97	97	100%	○
計算式：リサイクル率＝再資源化量÷産業廃棄物排出量（1,358,994kg÷1,394,867kg）					
3. 水使用量の削減	m ³	117	-	-	-
4. グリーン購入の推進	品目数	34	20	59%	×
5. スクラップ（有価物）リサイクル率の向上	個数 (回収コンテナ)	115	108	94%	△

達成状況の判定

◎達成率≧120%

○：達成率≧100%

△：100>達成率≧80

×：達成率<80

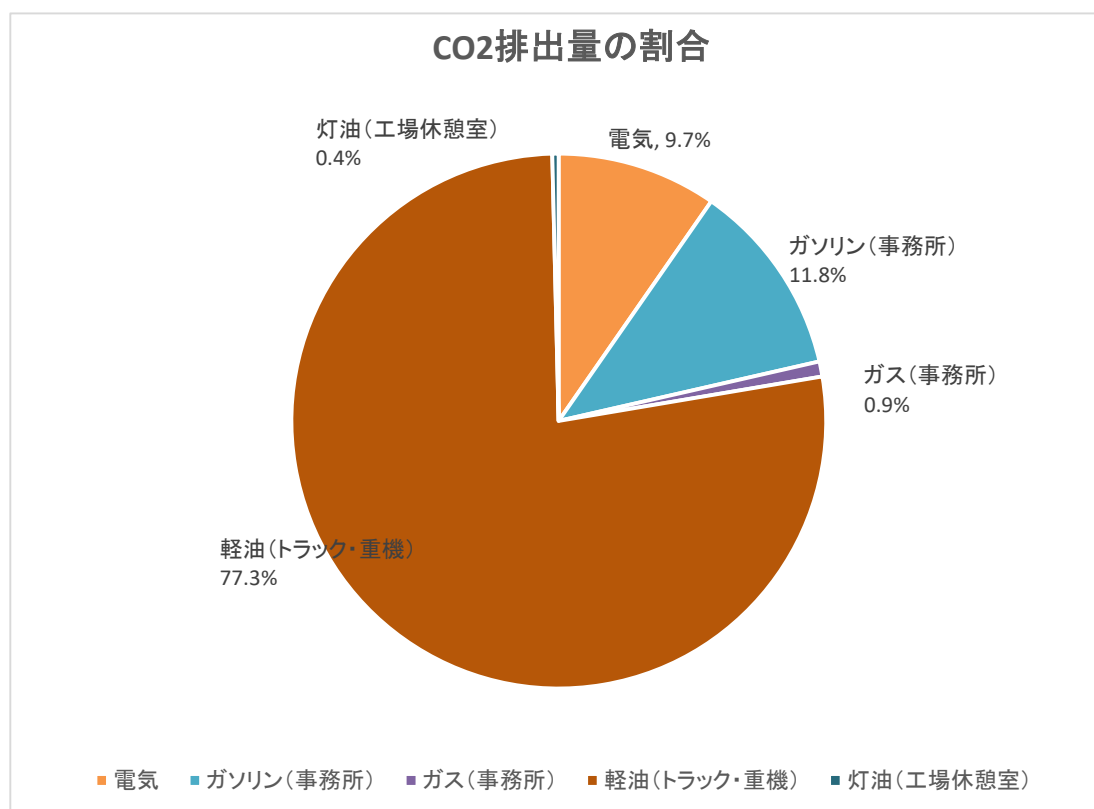
目標達成率計算

削減目標の場合＝（目標÷実績）×100 増加目標の場合＝（実績÷目標）×100

《二酸化炭素排出量の割合》

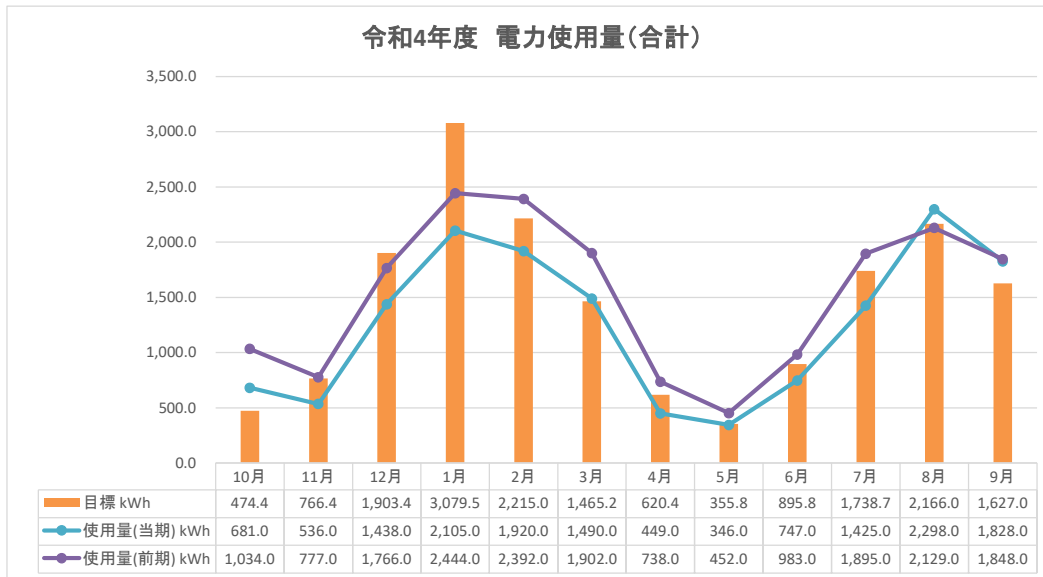
第11期（R4.10月～R5.9月）

項目	年間消費量	CO2 [t]	割合	排出係数
電気	15,263 kWh	7.3 t	9.7%	0.479
ガソリン（事務所）	3,830 L	8.9 t	11.8%	2.32
ガス（事務所）	228 kg	0.7 t	0.9%	3
軽油（トラック・重機）	22,647 L	58.4 t	77.3%	2.58
灯油（工場休憩室）	118 L	0.3 t	0.4%	2.49
合計	-	75.6 t	100.0%	-



■合計：夏場の使用量削減が課題。

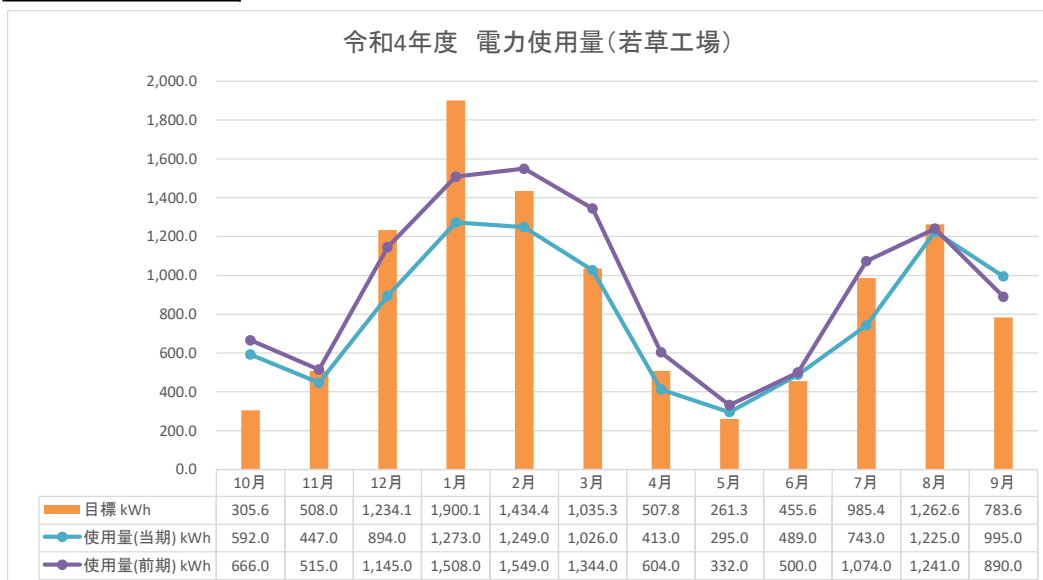
購入先：九州電力



目標達成率	
10月	69.7%
11月	143.0%
12月	132.4%
1月	146.3%
2月	115.4%
3月	98.3%
4月	138.2%
5月	102.8%
6月	119.9%
7月	122.0%
8月	94.3%
9月	89.0%
合計	113.4%

□若草工場：前期と比較すると削減できたが、夏場と冬場は使用量が増え、特に夏場は目標を上回っている月がある。

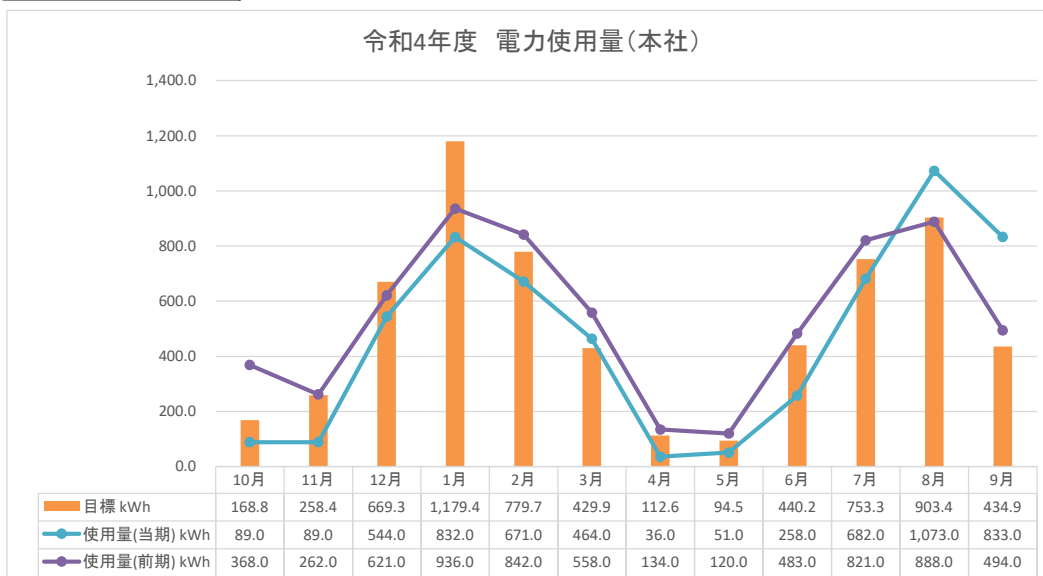
購入先：九州電力



目標達成率	
10月	51.6%
11月	113.6%
12月	138.0%
1月	149.3%
2月	114.8%
3月	100.9%
4月	122.9%
5月	88.6%
6月	93.2%
7月	132.6%
8月	103.1%
9月	78.8%
合計	110.7%

□本社：分社したそんとく塾に事務所を貸していることから、本社は次回から審査対象外となる。

購入先：九州電力

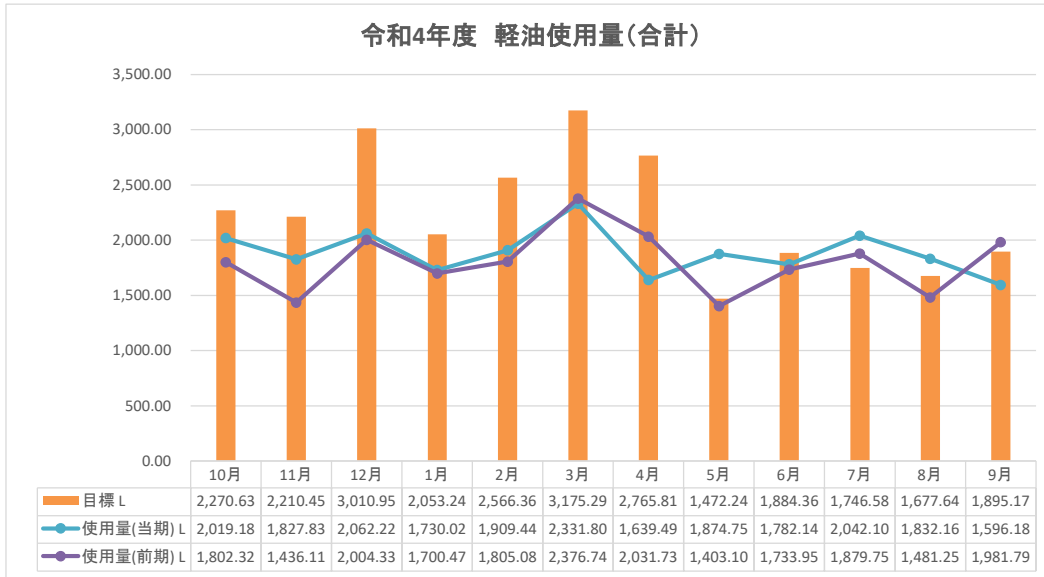


目標達成率	
10月	189.7%
11月	290.4%
12月	123.0%
1月	141.8%
2月	116.2%
3月	92.6%
4月	312.9%
5月	185.2%
6月	170.6%
7月	110.5%
8月	84.2%
9月	52.2%
合計	110.7%

《軽油使用量》 第11期 (R4.10月～R5.9月)

■合計 : 目標は達成しているが、前期よりどちらも増加している。様々な影響を受けた近年から、通常に戻りつつある。

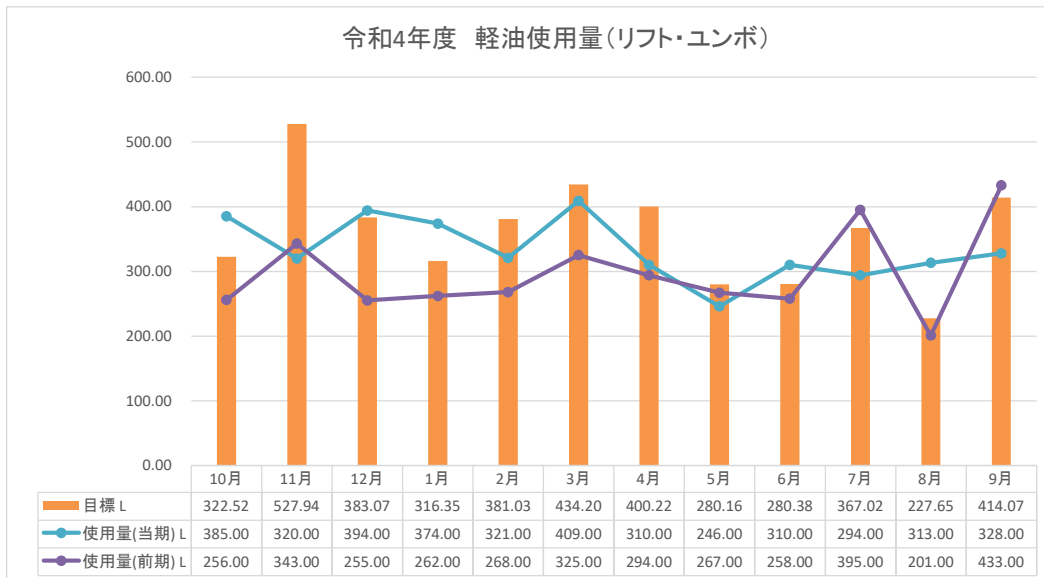
購入先 : 相光石油 / 出光



目標達成率	
10月	112.5%
11月	120.9%
12月	146.0%
1月	118.7%
2月	134.4%
3月	136.2%
4月	168.7%
5月	78.5%
6月	105.7%
7月	85.5%
8月	91.6%
9月	118.7%
合計	118.0%

□重機 : 給油は1週間おき取引先が来てくれる。年度末を境に使用量は減り、緩やかに推移している。

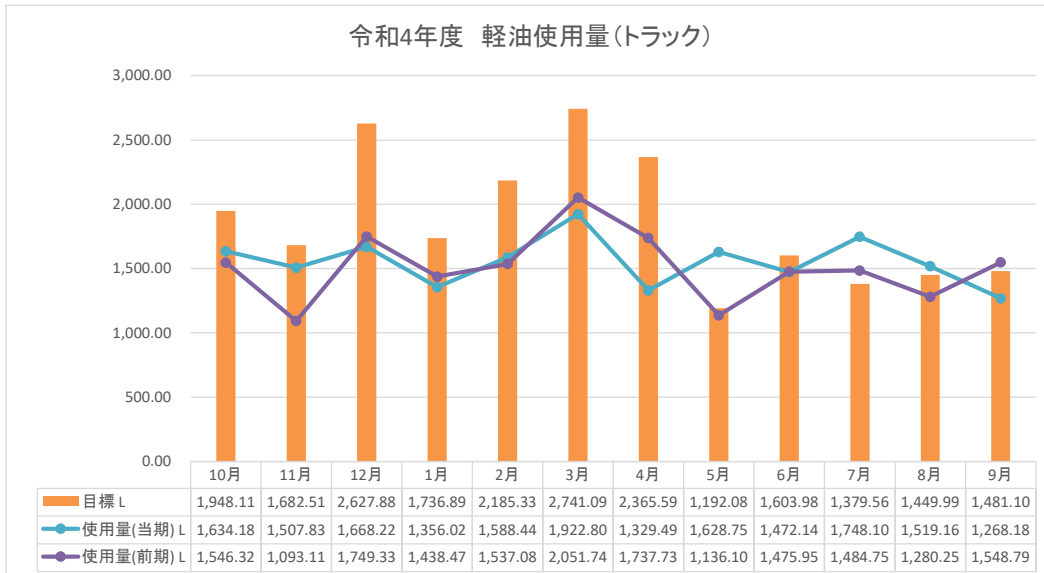
購入先 : 相光石油



目標達成率	
10月	83.8%
11月	165.0%
12月	97.2%
1月	84.6%
2月	118.7%
3月	106.2%
4月	129.1%
5月	113.9%
6月	90.4%
7月	124.8%
8月	72.7%
9月	126.2%
合計	108.3%

□トラック : 目標のとおり年末・年度末は通常回収以外の依頼が入ってくるが、11期は前期と比較してもそれが少なかった。

購入先 : 出光



目標達成率	
10月	119.2%
11月	111.6%
12月	157.5%
1月	128.1%
2月	137.6%
3月	142.6%
4月	177.9%
5月	73.2%
6月	109.0%
7月	78.9%
8月	95.4%
9月	116.8%
合計	120.1%

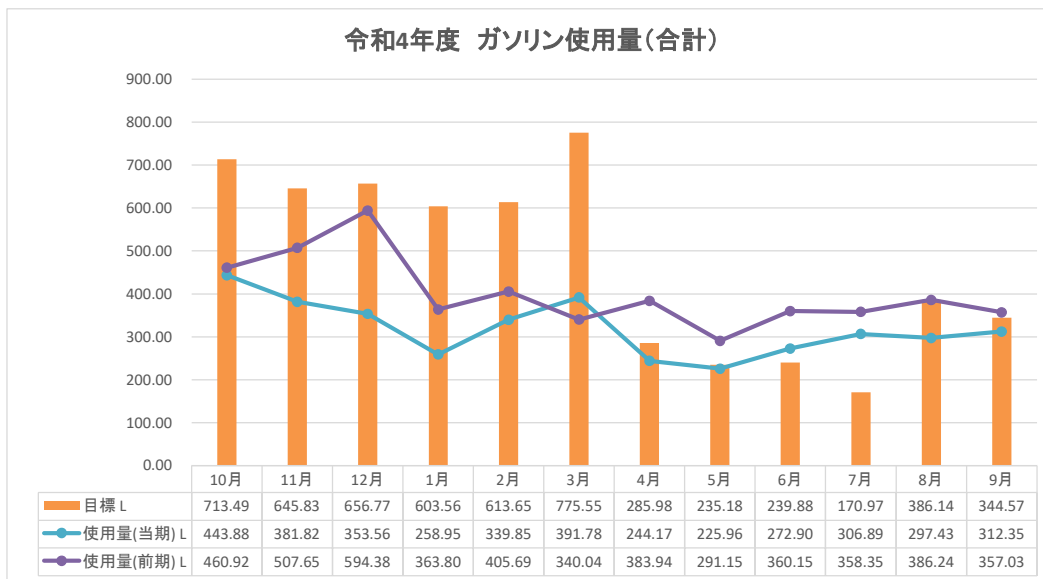
《ガソリン使用量》

第11期（R4.10月～R5.9月）

■合計（営業車/軽トラック）

：軽トラックはあまり使用しないため、ほとんどが営業車によるもの。

購入先： 相光石油 / 出光



目標達成率	
10月	160.7%
11月	169.1%
12月	185.8%
1月	233.1%
2月	180.6%
3月	198.0%
4月	117.1%
5月	104.1%
6月	87.9%
7月	55.7%
8月	129.8%
9月	110.3%
合計	148.1%

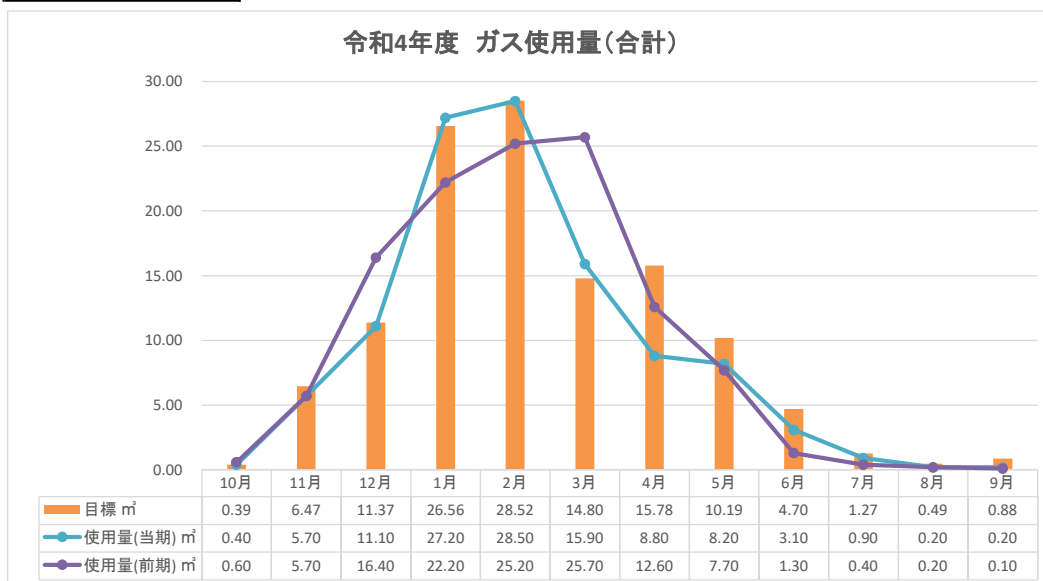
《ガス使用量》

第11期（R4.10月～R5.9月）

■合計

：主にガスヒーターで使用。11期は、目標と前期の使用量と比較しても削減できた。

購入先： 出光



目標達成率	
10月	97.5%
11月	113.5%
12月	102.4%
1月	97.6%
2月	100.1%
3月	93.1%
4月	179.3%
5月	124.3%
6月	151.6%
7月	141.1%
8月	245.0%
9月	440.0%
合計	110.2%

《灯油使用量》

第11期（R4.10月～R5.9月）

■合計

購入先： 出光

第11期より発生。前年比較がないため、グラフは作成していない。

また、全体のCO2排出量の1%にも満たないことから、実績は出すが現時点で目標設定しない。

項 目	10月	11月	12月	1月	2月	3月	上半期	
使用量(当期)	0.00	0.00	58.00	0.00	40.00	20.02	118.02	
項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	下半期	合計
使用量(当期)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	118.02 (L)

6. 環境経営計画 及びその取組結果とその評価、今後の取組内容

- 環境経営目標を達成するため、策定した環境経営活動計画の取組結果は次のとおりであり、
取組は適切に実施しています。
- 環境経営目標の未達成項目がありますので、
取組の更なる周知徹底、新たな取組の追加等、今後検討していきたいと思います。

環境経営活動計画			実施状況	評価及び今後の取組内容
1. 二酸化炭素排出量の削減				
1	電気使用量の削減	① 室内温度は冷房時28℃、暖房時20℃を目安に、エアコン設定温度を調節する。	○	今後も①、②、③を継続して実施していく。
		② 不要な照明の消灯。	○	
		③ 離席時はパソコンの電源OFF。	○	
2	ガソリン使用量の削減（車）	① エコドライブの推進。	○	走行距離記録、アイドリングストップの徹底を行いエコドライブの意識を高めている。 今後も①、②、③を継続し、一層のエコドライブを実施する。
		② 冷房・暖房の最低限使用。	○	
		③ タイヤの空気圧のチェック。	○	
3	軽油使用量の削減（トラック・リフト）	① エコドライブの推進。	○	走行距離記録、アイドリングストップの徹底を行いエコドライブの意識を高めている。 今後も①、②、③を継続して、実施し整備記録等車両の管理を行う。
		② 冷房・暖房の最低限使用。	○	
		③ タイヤの空気圧のチェック。	○	
4	LPGの削減	① 残業を減らし、ガスヒーターの使用時間短縮に努める。	○	今後も継続して実施していく。
2. 廃棄物排出量の削減				
1	一般廃棄物排出量の削減	① 分別収集して計量し、現状を記録する。	○	分別用のゴミ箱を設置、排出量軽減の意識づけが出来ている。 今後も①、②、③を継続して実施し排出量を全員が確認できるよう管理する。
		② 食べ残しをしない。	○	
		③ 分別回収を徹底し資源回収率をあげる。	○	
2	産業廃棄物のリサイクル率の維持向上	① 分別回収を徹底し資源回収率をあげる。	○	今後も①、②を継続して実施し、資源回収効率向上の為の手順を構築する。
		② マニフェストの管理を徹底する。	○	
3. 水使用量の削減				
1	水使用量の削減	① 水使用量の記録を取り、使用量の把握をする。	×	節水に対しての個々の意識改革はできた。今後も①、②、③を継続して実施する。
		② 節水標語を表示し個々の意識を高める。	○	
		③ 洗車時バケツに水をためて使用し節水に努める。	△	
4. グリーン購入の推進				
1	グリーン購入の推進	① どんな商品があるのか調べる。	○	新たに物品を購入する際はグリーン対象商品を確認し、今後も①、②を継続し可能な限り購入を推進する。
		② 商品購入時にできるだけグリーン対象商品を購入する。	○	
5. スクラップ（有価物）のリサイクル率向上				
1	スクラップ（有価物）のリサイクル率向上	① 事業者数を増やす。	×	今後も①、②を継続しリサイクル率（有価物回収量）の向上のための手順を確立する。
		② 分別物毎にBOXを設置し、回収後に徹底して選別する。	○	

【実施状況の判定】

○：実施されている △：ほぼ実施されている ×：実施されていない ー：判定できない、該当しない

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認 並びに違反、訴訟等の有無

- 当社の事業活動に関する環境関連法規等は次のとおりである。
- 2023年10月6日に境関連法規の遵守状況を確認・評価した結果、違反はありませんでした。
- また、関係機関等からの違反の指摘、利害関係者からの訴訟も、過去6年間ありませんでした。

適用される法規等	適用される事項（施設・物質・活動等）
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物の収集運搬、中間処理
グリーン購入法	物品調達（主に事務用品）におけるグリーン購入
地球温暖化対策の推進に関する法律	省エネ・省資源活動・CO ₂ 排出量の削減
フロン排出抑制法	簡易点検・整備の記録作成・保存
労働安全衛生法	健康診断
消防法	消防訓練
計量法	定期検査

8. 代表者による全体評価と見直し・指示の結果

■二酸化炭素排出量の削減について

前期に引き続き、第11期も二酸化炭素排出量削減の目標を達成できた。
電気使用量は、前期の達成率が100%未満だったが今期は113%となり、基準年・第10期と比較しても使用量が減少している。夏場は猛暑の影響で目標を上回っていることから、今後どれだけ抑えられるかで結果は変動してくると思う。
軽油使用量は、目標は達成しているが第10期よりも増加している。当社のCO₂排出において、一番大きな割合を占める軽油の使用を大幅に増加させないために、工夫が必要になる。

■水使用量について

冬場に水道管が凍結しメーターが破損したことで、検針ができなくなった。また、諸事情によりメーターの取り付けをストップしていたが、結論が出たため近日中に取り付けを行うこととなった。近年水道管が凍結することが何度かあったため、凍らないような対策を取るようにする。

■エコアクション21の取り組みの周知について

引き続き、エコアクション21の取り組み内容を全従業員へ周知する努力が必要である。今回初めて作成したCO₂排出量のグラフを、回覧や掲示をして有効活用できたら良いと思う。継続して目標を達成していくように、また未達成でも全員が意識的に取り組んだ結果となるように、取り組みの周知を工夫して行っていくことが重要である。

■次年度の目標について

第11期を基準年とし、目標を修正する。
以前の目標には、分社したそんとく塾が使用している本社の電気使用量や、分社後転籍になった者のガソリン使用量が含まれていること等から、分社・転籍後の実績から目標を設定し直すこととした。
グリーン購入は、初めて購入するグリーン商品のみカウントしているが、新商品を多く購入することが目標に対して是なのかを考え、内容を見直した。
また、スクラップのリサイクル量向上におけるコンテナ回収については、年間合計の目標に対し月で割って個数を設定した。
水使用量は第11期が未計測であったことから、過去3年分の実績を基に設定した。